

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900470
法人名	有限会社 レインボープラス
事業所名	グループホーム 虹の森
所在地	愛媛県北宇和郡松野町大字松丸551番地1
自己評価作成日	平成22年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりのできることを見つけながら、日々の生活支援を行っている。併設の事業所と交流を図り、合同レクを行い楽しい時間を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能型居宅介護を併設する2階建ての事業所1階にホームがあり、同敷地内別棟には介護付き有料老人ホームも開設している。併設事業所の職員とは互いに連携しており、行事を共に行うなどしてそれぞれの利用者も馴染みとなり、次第に交流が広がっている。地域福祉に熱心な運営者が作った理念や目標を毎月の職員会議で共有し、実践に繋げている。職員は、利用者それぞれができることを大切に、少しでも長く残存機能を維持できるよう支援している。利用者同士の会話は楽しく、見守る職員のまなざしが優しく穏やかで、安心して過ごしている様子がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム 虹の森
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	竹本 香代子
評価完了日	21年 1月 8日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は玄関に掲示し、いつでも見えるようにしている。家庭的な雰囲気の中にマンネリした介護にならないよう日々新たな気持ちで介護をするよう心がけている。</p> <p>(外部評価) ホームの理念は、運営者が求める理想を表現したものである。月1回行うスタッフ会議で、運営者から理念に沿った目標などについて具体的に説明され、その運営者の思いを受けて、職員が「家庭的な雰囲気へのケア」を心がけている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) スタッフに地元の者が多いため、情報収集はできている。行事にも地域の方々にも参加していただき、交流に取り組んでいくよう努力している。</p> <p>(外部評価) 利用者はホームのある地域外の出身者が多いが、職員は地元出身者が多く、腹話術の特技がある知り合いに来てもらうなどして利用者に喜んでもらっている。地域との繋がりや本格的な交流はこれからの課題として捉え、具体的な取り組みをはじめている。</p>	地域の方が気軽に立ち寄ってくれるような良好な関係づくりに努め、さらに交流を図っていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 行事などに地域の方々にも参加していただくよう働きかけたり、認知症についての学習会に、運営推進委員の方への参加してもらった。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議を重ねる事に委員さんにも理解していただき、情報交換を行いながらサービスの向上にむけ努力している。認知症についても学習会にも参加していただく	
			(外部評価) 会議は2か月に1回開催し、町担当者や地区の役職者を中心としたメンバーで、ホームの実態報告、イベント開催のお知らせ等を行い、会議での意見はサービス向上に活かしている。会議の報告は詳細で丁寧にされており、理解しやすい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターとは密に連絡を取り合い、課題について助言をしていただき情報交換ができるようになってきている。	
			(外部評価) 町担当者には、運営推進会議のメンバーとして参加してもらっており、町の情報や研修会の連絡を得るなど、サービスの質の向上に役立てている。運営推進会議開催時に認知症ケアについて講演してもらうなど、地域包括支援センターとの関係も良好である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体的拘束について、学習会を重ねながら正しく理解し利用者の安全の確保に努めている。夜間の玄関は、安全上施錠しているが、それ以上の拘束は行っていない。	
			(外部評価) ホーム内で学習会を重ね、身体拘束をしないケアに熱心に取り組んでいる。車いすも最小限での使用としている。安全を確保するため、玄関は夜間のみ施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会において身体の虐待だけでなく言語の虐待についても学習し、日々のケアの場面についてもその都度注意をするようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 家族と連絡を取り合い必要に応じて対応するよう心がけている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明をし納得された上で契約を行うようにしている。面会時相談に乗るよう努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情相談窓口を設け、ホーム内に掲示している。いつでも対応できるよう、職員会議等で話し合い、できる限り実現できるよう努力している。 (外部評価) 家族の来訪時等に意見や要望を把握するよう努めている。家族の多くが遠方におられるため、ホームでの暮らしぶりや行事の案内状を送って情報交換している。ホームに家族から感謝の手紙が届くこともあり、日ごろの努力の賜と言える。	今後はさらに家族会を活用して家族の意見等をさらに引き出したり、より深く情報交換を行う等の工夫を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会で意見や提案を聞く機会を設け、職員間の意見交換ができるように努めている。	
			(外部評価) 月1回、関係事業所との合同職員会義で意見を聞く機会を設けている。資格修得をめざす職員もおり、外部研修を受講した後は報告書を作成して研修内容の共有に努めている。運営推進会議にも順番に出席し、ホームを共に良くしていこうとする姿勢がうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員が向上心を持てる職場環境を整え、勤務状況等を把握し、職員への処遇改善に心がけている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個人個人にあった外部研修を選び参加している。法人内において講師を依頼し、職員全員が出席するよう努めている。 また、定期的に学習会も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 職場がグループホーム、小規模多機能型居宅介護、介護付有料老人ホームが同じ敷地内にあるので、職員が交流を深めながら学習会ができるよう工夫している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の情報を把握するように努めている。話合いの時間を大切にし、意見・要望を聞き、理解するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 必要に応じて連絡を取り、何でも声かけをしていただくように、家族との関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族と話し合いをし、その人にあったサービスができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の悩みを聞いたり、一緒に過ごす時間を大切にしている。また役割づくりを行い、本人が主体となる時間が作れるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 近況報告を定期的に行いながら、行事の参加や面会を通じて、共に共有しその人に合った支援できるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 遠方の方には面会依頼をしたり、手紙で近況を伝えたりしながら、本人との関係が途切れないよう努めている。 一人ひとりの状態を把握し、好みのレクや関わりを大切にしよう心がけている。 (外部評価) 利用者の多くはホームからやや遠い地域の出身者であり、家族以外の来訪は少ない。電話や手紙等を活用して利用者の人間関係が継続できるよう支援している。併設型グループホームであり、職員はそれぞれの利用者の関係性にも配慮しながら、場の雰囲気徐々に馴染めるような支援に努め、継続的な交流ができるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者全員でできるようなレクリエーションを探し、参加の声かけするよう努めている。また、お互いが洗濯物をたたみあったり、洗い物を手伝ったりされる環境を作るよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 近年退所された方はいないが、今後は他施設への異動があった場合は、家族と密に連絡を取り、受入れ先の施設等と連携がとれるよう努める。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の態度しぐさから感じとり、把握するよう努め、その人にあった関わりを持つように努力している。 困難な場合は家族と話し合い、その人にあったケアができるよう努めている。 (外部評価) 家族の来訪時には家族から情報を得よう心がけ、常日頃から利用者と接する時間を大切にして、会話や表情から思いや意向の把握に努めている。ケアの中での気付きは、利用者の記録ファイルを活用して全職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 可能な限り情報を聞き出し、これまでのサービスまたは生活リズムを把握するよう努めている。 家族とも密に連絡を取り合うように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 家族とも密に連絡を取り合い、アセスメントを行い、本人のできること、できないことを暮らしの中で発見できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネが中心となり、本人・家族・介護職員が定期的に話し合う場を設け、日常生活をどのように支えていけばよいか検討している。 (外部評価) 全職員で事例検討（カンファレンス）を行い、利用者及び家族の思いや意向、状況にあわせて介護計画を作成している。状態の変化があった際にはその都度見直しを行っている。介護計画がいつでも一目で分かるように、記録ファイルの表紙に貼り付ける等工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎月職員会を設け、カンファレンスを行い、職員が利用者の情報を共有し、ケアの見直しや実践に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族の状況に応じて対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて家族と相談し、地域包括支援センターに協力をしていただき支援できるよう努めている。また、ボランティアなどに行事への参加をしていただき、楽しむ時間が作れるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者やその家族の希望に応じ、かかりつけ医への 受診、主治医と連携をとり、いつでも相談できる体制 づくりに努めている。 (外部評価) ホームの協力医療機関をかかりつけ医としている利用 者が多い。町外への受診は家族に対応をお願いするこ ととなっているが、現在はいない。ホームの協力医療 機関とは密に連携しており、利用者の健康管理や状態 変化に応じた相談・助言等適切な対応により医療面の 支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員として看護師を配置しており、利用者の健康管 理について相談ができる体制にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時は、情報を提供し、病院との連絡を密にと るよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 事例はないが、現段階では家族と話し合い、状況に応 じて対応したい。また、主治医と連絡を取り合い、相 談し対応するよう努めている。 (外部評価) 利用開始時に、看取りに関する指針に基づいてホーム の方針を説明している。現在、終末期ケアの段階にあ る利用者が1名おり、夜勤時の不安等がある職員もい るが、家族、医療関係者等と連携して対応する仕組み は確保されている。本人及び家族の希望により、ホー ムで安心して最期を迎えられるよう前向きに取り組ん でいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、学習会を行い職員に徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、鬼北消防署に講師を依頼し、避難・通報・消火訓練を行っている。 (外部評価) 消防署の指導のもと、昼及び夜間を想定した防災避難訓練を年2回実施している。運営推進会議には地元消防団長や区長も出席しており、支援体制が充実しているが、さらに地域の協力を得られるよう取り組んでいく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレ・入浴時等プライバシーを侵害しない対応に努めている。 また、個人情報保護遵守を職員に徹底している。 (外部評価) 自力でゆっくり行動する利用者を急かすことなく見守り、外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなくさりげなく声をかけて同行するなどして安全確保に努めている。トイレ・風呂等への誘導は小声でさりげなく行い、誇りやプライバシーに配慮した対応の仕方には十分気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の意思を尊重し、必ずその人の状態に合わせた説明や表現方法を工夫し、意思表示ができるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態を把握し、好みのレクや関わりを大切にするように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員に美容師資格を有するものがあるので、利用者が希望するときに散髪をすることができる。 また、散歩を兼ねて地域の理髪店に行くことがある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に食べたいものを聞き、それを献立に反映するよう努めている。食後の片付けを手伝っていただくよう、声かけに努めている。 (外部評価) 職員も利用者と一緒に食事を楽しんでいる。利用者同士が楽しく食事できる雰囲気づくりに努めている。支援の必要な利用者には、職員が横に座り、ゆっくりやさしく、かつ自立した食事ができるようさりげなく支援している。準備や後片付けは、できる人ができることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量を毎日チェックし、全職員が把握するよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを声かけしながら行っている。義歯は洗浄剤を使用し、清潔が保てるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりに合った対応を職員が把握し、時間により誘導するよう努めている。 申し送りの際、最終トイレ介助時間を申し送るよう職員に徹底している。また、トイレのサインを見逃さないよう注意している。	
			(外部評価) 夜間は紙パンツや尿取りパッドを使う方もいるが、日中はトイレでの排泄を重点に支援している。オムツを使っていた方が、ホームでのケアによりトイレでの排泄が可能となった例もある。腹部マッサージや運動を行い、便秘対策に取り組んでいる。排泄パターンは連絡ノートに記載し、次の介護に有効に活用されるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便状態を確認し便秘傾向が続く時は、水分補給を行い、あわせて腹部マッサージを行い、自然排便できるよう努めている。また状態により、酸化マグネシウムや便秘薬の調整を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1対1対応を心がけ、入浴剤を入れるなど工夫を行っている。	
			(外部評価) 入浴可能日は週3回とし、日中に入浴を楽しんでもらっている。利用者の1人は、必ず一番風呂である。入浴を嫌がる方には声かけや誘導を工夫し、気分を変えてもらったり入浴剤を入れるなどの工夫をしている。介助を必要とする利用者が多くなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は声かけを行い、レクへの参加を促し、本人の状態にあわせ休養を取り入れながら行う。 室温調節、環境整備の配慮に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の服用している薬の把握・理解し服薬介助するよう努めている。 また服薬後の利用者の状態観察に注意するよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに合った作業を声かけし、お願いする。 食後の食器洗い、ホールの掃除、テーブル拭きなど	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日はドライブに出かけたり、買い物・散歩をし、地域の方と関わりが持てるよう努めている。 また他事業所の利用者との交流を図るよう努めている。	
			(外部評価) 退居者がなく利用者が年々重度化しているため、日常的な外出支援が困難な状況になりつつある。ホーム内の生活が続く利用者にも少しでも外気を楽しんでもらおうと、玄関前に出て日向ぼっこをしたり、ホーム周辺を散歩する等により、気分転換できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持ができる人が限られているため、できない人は必要時事業所が立替をし買い物をしたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自ら電話や手紙のやり取りができないため、職員がしているが、そのときに本人が変わり通話できるよう支援している。手紙を送付する際は、行事参加時の写真を送付したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者と職員が共同で季節にあった壁飾り（ちぎり絵）を作り掲示している。 また季節の花を飾り季節を感じていただけるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 食堂や居間は一体的なつくりで、畳の間もある。全てが視界に入るため、利用者の動きが確認しやすい。壁には利用者と職員の合作の作品（ちぎり絵）が飾られ、季節感がある。利用者同士が仲良く穏やかでくつろげる空間で、安心できる環境となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食事が終わると利用者が集まり、雑談をしている姿が見受けられる。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 可能な限り本人や家族と相談しながら、使い慣れた物を持参していただいている。また、ご自分が作成した作品を自室に持ち帰り飾っている。</p> <p>(外部評価) 居室のベッドは備品であるが、使い慣れた寝具、箆笥、衣装ケース等が持ち込まれ、家族と一緒に過ごした懐かしい思い出の写真などが飾られている。居心地よく過ごせる部屋となっており、居心地よく過ごせる居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の状態に合った環境づくりに努め、できるだけ自立した生活ができるようにしている。</p>	